

平成25年度9月定例記者会見 会見録

日時 平成25年9月30日（金）午後3時45分～4時20分

場所 市役所2階第1特別会議室

（市長）

はじめに、本日閉会いたしました9月定例会についてご報告させていただきます。9月定例会につきましては8月26日に招集以来、36日間のご審議をいただき、すべての案件につきましてご議決をいただきました。総合計画や地方分権、介護の人材確保など多岐にわたるご質問をいただきました。また、議員提出議案により「がんばる中小企業を応援する条例」を制定していただきました。市といたしましてもしっかりと連携し、条例の趣旨に沿って中小企業の支援を進めてまいります。

次に、リニア中央新幹線についてでございます。9月18日にJR東海から環境影響評価準備書の提出がありました。内容といたしましては2027年に開通予定のリニア中央新幹線の東京、名古屋間のルートや、中間駅、車両基地の位置などが示されたものでございます。駅位置につきましては、リニア中央新幹線建設促進神奈川県期成同盟会を通じて長年本市が要望してまいりました橋本駅付近への設置が示され、大変嬉しく思っております。また、緑区鳥屋付近に車両基地が設置されることが示されております。橋本駅につきましては、JR横浜線、相模線、京王相模原線の3線が乗り入れております。圏央道からのアクセスもよく、首都圏南西部の交通ターミナルとして、リニア中央新幹線の駅を設置する場所としてふさわしい場所であると考えております。リニア中央新幹線をはじめとする広域交通網の充実によりまして、「人・もの・情報」が交流いたしますので、これから市が進めるまちづくりに大きな効果をもたらすものと認識しております。首都圏南西部の「交流ゲート」、神奈川県の「北のゲート」として、圏域全体の発展、ひいては日本全体の発展をリードするような広域交流拠点の形成を図りたいと思います。50年、100年という長期展望に立ち、「人や企業に選ばれるまちづくり」を目指し取り組んでまいりたいと思います。

次に、東京オリンピック・パラリンピックについてでございます。2020年に開催が決定いたしました。招致に際しましてご尽力されました関係者の皆様に改めて心からお祝いを申し上げますとともに深く敬意を表します。1964年の東京オリンピック開催時には、本市の相模湖で「カヌー競技」が行われました。その時には各国から選手が来られ、盛大に催されたと聞いております。2020年のオリンピックは、東京都内でほとんどの競技が実施されると聞いております。本市も九都県市首脳会議のメンバーでもございますので、できる限りの様々な協力、支援をしてまいりたいと思っております。東京オリンピック・パラリンピックについては被災地に対して勇気や希望をもたらすものであるとともに日本全体の厳しい状況

を払拭するものと期待しております。オリンピックは私自身も楽しみにしております。

次に、ペアナードオダサガについてでございます。長年取り組んできました小田急相模原駅北口の再開発事業による再開発ビルが10月10日、ようやくオープンいたします。小田急相模原駅北口地区につきましては、平成20年5月に駅側の再開発地区が完成しております。今回のペアナードオダサガのオープンによりまして、駅前の主要な都市基盤が整ったこととなります。ペアナードオダサガには、飲食店など18店舗、6つの医療機関などが入るとのことでございます。今後、小田急相模原駅周辺におきまして市民の皆様の利便性が高まるとともに、魅力と賑わいのあるまちづくりが進められていくことと思っておりますので、市といたしましても一生懸命支援してまいります。

次に、「潤水都市さがみはらフェスタ」についてでございます。本市のシティセールスのシンボルイベントであります「潤水都市さがみはらフェスタ」を10月26日、27日の2日間、相模総合補給廠の一部を会場に開催いたします。今回のフェスタでは、恒例の「さがみはらあ麺グランプリ」をはじめ、様々な催しを開催する予定でございます。この中では、本年度中に市内の圏央道が開通することを記念いたしまして、圏央道でつながる主要道路沿線の自治体のゆるキャラをお招きし、「圏央道キャラクター祭り」を開催したいと思っております。また、創立40周年を迎えた相模原商工会議所と連携いたしまして、会員企業の紹介や製品展示を行う「さがみはら産業展」も開催したいと思っております。昨年のさがみはらフェスタには、市内外から21万人の方にお越しいただきましたが、今年も昨年を越える来場者にお越しいただけるよう魅力的なイベントにしていきたいと思っております。記者の皆様におかれましては、ぜひ、取材をお願いいたします。

私からは以上でございます。

(記者)

リニア中央新幹線の車両基地の位置が示されましたが、この中には鳥屋小学校と鳥屋中学校があります。JR東海の説明では学校の移転を伴わないとのことですが、市はどのように考えられますか。

(市長)

公共施設に影響がないよう調整したいと思っております。以前から車両基地が津久井地域にできるという話もありましたが、今回具体的に緑区鳥屋に設置されることがわかり、何よりも地域住民の生活環境の障害にならないようにしなければならぬと思っております。JR東海や神奈川県と連携いたしまして地域の生活環境が損なわれないよう調整をしたいと思っております。全国新幹線鉄道整備法では、自治体の協力支援も義務付けられておりますので、JR東海や神奈川県などと連携する必要があります。津久井地域は自然環境が豊かな地域ですし、水源地域として、環境に配慮しなければなりません。一方で地域ではリニア中央新幹線の関連施設は観光資源になるので

はないかという期待もあるとのことでございますので、地域の意見を伺いながら地域振興につながるよう調整を進めていきたいと思っております。

(記者)

小・中学校の近くで工事が進められると教育環境に影響があると思いますが、どのように考えますか。

(市長)

市民の生活環境を損なってはいけません。学校は子ども達の学びの場ですから、環境を大切にしなければなりません。また、学校があればよいというものではございません。昔から引き継がれた伝統や地域性もあります。従来から豊かな自然の中に学校があり、地域と連携した教育環境がありましたので、このような環境を損なわないということが大前提で、車両基地を整備するために小・中学校の一部、または全部が移転ということになれば大きな問題ですので、そのようなことにならないよう、しっかりと調整をしてみたいと思っております。

(記者)

車両基地建設のための工事車両の通行について、説明会でも話がありましたが、対象区域周辺は狭い道路が多く、しかも一部が通学路になっています。このことについて市長はどのように考えますか。

(市長)

車両基地として示された区域の中には地域の重要な道路があります。工事によりその道路を頻繁に使用し発生した残土を移動することも考えられますが、できる限り現場内で処理するという方法で進められると思いますが、市としてもそのように調整したいと思っております。鳥屋地域は道路が少なく通過する道路が限られておりますので地域にお住まいの方や児童・生徒などに影響がないよう準備し、造成工事、残土処分を進めていただきたいと思いますと思っております。

(記者)

がんばる中小企業を応援する条例について、議員提案として条例ができたことについて、市長はどのように考えますか。

(市長)

内陸工業都市である相模原市にとって中小企業の振興は生命線で、本市は昭和29年に市制施行、翌年に当時の工場誘致条例を制定し、その後も様々な優遇策や政策を具体的に示しながら企業誘致に取り組んでまいりました。現在、多くの企業が相模原市で活動しておりますが、その99%を中小企業が占めております。日本全体でもいえることですが、これからの中小企業はイノベーションと申しますか、技術開発をしなければなりません。産業構造が変化している中で、企業を支えるための人材の支援、起業の支援、融資など様々なものが必要となります。市条例で中小

企業支援を明確に位置付けたことは非常に素晴らしいことだと思います。条例の趣旨を踏まえ、市といたしましても施策を実施する義務もあり、また、それに伴う予算の確保なども謳われておりますので、条例制定は大変意義があるものと考えております。

(記者)

4月施行ですので、来年度当初予算の対応となるか分かりませんが、条例が可決されたことを踏まえ、予算に関してはどのように考えられますか。

(市長)

中小企業の支援には、融資制度や人材の支援、事業計画立案の支援など、様々なことがあり、これらの支援はこれまでも取り組んできたことでございます。市ではSTEP50等の政策を独自に行っておりますが、将来を展望した中で見直す必要があれば見直してまいりたいと思います。議会の各会派からは毎年、市民や中小企業からの要望を踏まえた上で翌年度の予算に対する提案をいただいております。さらに、産業支援機関である商工会議所やさがみはら産業創造センターなどが構成する産業支援機関合同会議からの意見もいただき、政策上来年度予算に必要なものは計上していきたいと思っております。

(記者)

条例の有無に関わらずこれまでも取り組まれており、条例制定後も引き続き取り組まれるということでしょうか。

(市長)

今回の条例は、理念条例という面もありますので、具体的な政策については中小企業や議会の意見も伺いながら必要な政策を来年度予算で計上してまいりたいと思っております。

(記者)

オリンピックについて先ほど市長から、前回の東京オリンピックのカヌー競技についてお話がありましたが、今後、2020年のオリンピックに向けて合宿地の誘致などに取り組む考えなどはありますか。

(市長)

ワールドカップが日本で行われた際にも、国内でキャンプ地の誘致が行われました。今回、競技は主に都内で行われますが、合宿所、キャンプ地として、各国からの理解が得られるなら誘致していきたいと思っております。近いうちに九都県市首脳会議があり、猪瀬都知事も出席されると思っておりますので、その際に私から大会の成功に向けた様々な支援の一環として、合宿所やキャンプ地の提供なども含め、提案したいと思っております。

(記者)

支援について市長自身に青写真のようなものはありますか。

(市長)

前回の東京オリンピックでは、相模湖でカヌー競技が開催されました。相模湖には現在も漕艇場があり、東京に近く非常に良い場所だと思いますので、本番直前のカヌー競技の練習地として提案したいと思います。

(記者)

カヌー競技以外でイメージはありますか。

(市長)

市内には相模湖のほか、現在、第二競技場の整備を進めている相模原麻溝公園競技場があります。東京オリンピック・パラリンピックの選手団には、大小あると思いますので、規模にあった場所の選定が必要だと思います。相模原市にある施設をご利用いただけるということでしたら、大歓迎したいと思います。どのような施設を提供できるか、職員に研究させたいと思います。

(記者)

がんばる中小企業を応援する条例について、市が行う工事等の発注を分離、分割して、中小企業が受注できるようにするという内容があり、文言も強めですが、どのようなことでしょうか。

(市長)

これまでも市が行う工事の発注や物品等の調達にあたっては、市内中小企業の受注機会が多くなるよう、一括発注ではなく、なるべく分離、分割して欲しいという要望がありましたので、市といたしましては、市内業者への優先発注や分離、分割発注に取り組んでいるところです。今回、もう少し内容を充実していただきたいというご要望でございますから、さらに取り組みを進めてまいりたいと思います。予定価格が250万以下の競争入札に付さなくてもよい工事については、小規模修繕登録制度を活用し、各部署で発注しておりますが、広く登録業者に発注されていないということもあります。条例では小さな工事から大きな工事まで、なるべく市内の企業が受注できるよう検討して欲しいということですから、取り組みを進めてまいりたいと思います。

(記者)

東京オリンピック・パラリンピックについて、練習場を誘致する競技としてカヌー競技をあげられましたが、市内には他にも日本選手権などを開催している施設もありますので、そのような施設の利用はいかがでしょうか。

(市長)

総合体育館もあります。これまでも総合体育館で卓球の実業団全国大会なども開

催しておりますので、参加国からご希望があれば、それに応えられるよう対応したいと思っております。また、相模原麻溝公園競技場は、サッカーやグラウンドホッケーの練習場として利用できると思います。現在、第二競技場を人工芝で整備しているところですが、人工芝はグラウンドホッケーに適しているとのお話もありますので、条件が合えば利用していただきたいと思っております。

(記者)

加山市長の母校である相原高校ですが、移転の現実性が高まったことへの感想をお願いします。また、県立高校のため移転の決定などは直接市には関係はありませんが、生徒や市民、関係機関者にどのようにご説明されますか。

(市長)

相原高校は県立高校ですので、所管は神奈川県です。先の県議会で知事は、リニア中央新幹線の神奈川県駅が橋本に決定した場合は、相原高校を移転する方向で対応したいと表明されておりますので、これまでは神奈川県知事の方針を前提にお答えしてまいりましたが、駅の位置が示されましたので、市民にご理解をいただけるよう市と神奈川県の担当部局で協議を進めたいと思っております。教育施設ですので、神奈川県としても生徒に支障がないよう移転を進められると思っております。移転にあたっては、生徒の通学や学習環境の変化などの問題もありますのでしっかり協議していただきたいと思っております。私の母校についての個人的な考えとしては、90年という長い間、橋本駅の南口にあり、多くの生徒が卒業し、活躍されております。移転することについて卒業生の方々からは「寂しい」というお話も伺っております。私が通ったのは普通科でしたが、今は実業高校として食や環境の分野で生徒がとても活躍されております。彼らが社会を支えていくようになって欲しいと思っておりますし、学校が引き続き存在していくために私も支援しなければならないと考えております。これから調整するにあたり、生徒が夢を持つことができる学校を新たにつくりだしていきたいと思っております。

(記者)

調整という中には、相原高校移転の橋渡しという意味も含まれてはいますか。

(市長)

相原高校の移転先として想定されているのは職業能力開発総合大学校跡地です。現在は橋本駅に学校があり、駅から約1分で通学できたものが今後は交通機関を乗り継がなければならなくなります。また、道路事情もあります。交通のあり方や道路の幅員を含めた環境整備などを総合的に考える必要があります。県と連携しながら生徒の環境に支障がでないよう進めなければならないと思っております。

(記者)

先ほどのオリンピック関連の質問についてですが、合宿地などの誘致に係る提案

は、次回の九都県市首脳会議で行う予定ですか。

(市長)

日程については事務局で調整しているところですが、私としてはそこでお話しをしたいと考えております。

(記者)

オリンピックの東京開催が決まりましたので、他の自治体でも様々な機運があると思います。何か具体的なお話はありますか。

(市長)

東京都は九都県市の真ん中にあり、相模原市だけでなく、その他の自治体でもキャンプ地の誘致などのお話しはあると思います。相模原市にはカヌー競技の練習ができる環境が整備されていますが、他の自治体でも様々な競技の環境が整っていると思います。九都県市で支援、協力を行うための検討組織をつくり、九都県市全体で支援できるよう提案していきたいと思います。

以 上